

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第4試合 男子決勝戦						
日時	平成22年6月22日(日) 14:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	11	—	17	得点	チーム名
	福岡第一	66	19	—	20	88	延岡学園
			22	—	19		
			14	—	32		

チーム名						
福岡第一						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	本間 遼太郎	14	0	3	8	4
5	白川 健人	0	0	0	0	0
6	井星 一希	10	3	0	1	2
7	長島 エマニエル	15	0	6	3	3
8	川崎 健斗	0	0	0	0	0
9	小松 雅輝	0	0	0	0	0
10	ゲイル・エルハジ・マリック	0	0	0	0	1
11	田中 光	11	1	4	0	5
12	梁 超	15	0	7	1	4
13	鷗 誠司	1	0	0	1	1
14	幡本 優生	0	0	0	0	0
15	山本 純平	0	0	0	0	1
合計		66	4	20	14	21

チーム名						
延岡学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	甲斐 慶彦	0	0	0	0	0
5	エリマン プイ	31	0	14	3	2
6	寺原 拓史	14	2	4	0	3
7	黒木 亮	12	0	4	4	1
8	岩田 大輝	2	0	1	0	5
9	善家 耕太郎	0	0	0	0	0
10	田中 駿也	6	0	3	0	1
11	平岡 大志	2	0	1	0	1
12	脇坂 恭輔	0	0	0	0	0
13	岡本 飛竜	1	0	0	1	0
14	ベンドラメ礼生	18	0	6	6	4
15	エルハジ・アッサン・ジョブ	2	0	0	2	0
合計		88	2	33	16	17

戦評

第1Q、延岡学園は プイにボールを集め、インサイドで着実に加点。対する福岡第一は 本間、長島を中心にアウトサイドからのプレーで得点をねらうも、延岡学園の堅い守りを崩せない。第1Q終盤に、梁が連続得点をあげ、11-17延岡学園リードで第1Q終了。

第2Q、福岡第一は 梁のバスケットカウントでさい先良いスタートを切るものの、延岡学園もインサイドプレーや速攻で得点を重ね追従を許さない。残り5分、福岡第一はオールコートプレスを仕掛けると、延岡学園はリズムに乗れなくなる。福岡第一 本間が果敢にドライブインを仕掛けファールをもらい、フリースローを着実に沈める。その後も 梁のインサイドなどで加点し、点差を詰める。30-37、延岡学園リードで2Q終了。

第3Q、福岡第一は、長島、田中のアウトサイドシュートに当たりが来だし、一気に差を詰める。延岡学園も ベンドラメを中心に攻撃を展開するも、ファールトラブルにより、相手ディフェンスを攻めあぐね、なかなかリズムに乗れない。福岡第一のペースで進んだ、第3Qは52-56と福岡第一が4点差に詰め寄る。

第4Q、開始早々延岡学園は プイのインサイド、寺原のドライブインによる得点で波に乗る。福岡第一は3-2のゾーンディフェンスを攻略できずに徐々に差が開いていく。終盤、福岡第一は連続3Pで追いつがるも、着実に得点を重ねる延岡学園に対抗することができず、88-66で延岡学園が勝利、優勝を収めた。

担当者(四方田洋一)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

女子	Bコート 第3試合 シード決定戦						
日時	平成22年6月20日						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	21	—	10	得点	チーム名
	大津	76	22	—	14	67	慶誠
			18	—	20		
			15	—	23		

チーム名						
大津						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	落合 千里	14	0	5	4	1
5	大塚 優子	16	1	6	1	4
6	石坂 郁美	3	0	1	1	2
7	河野 怜美	3	1	0	0	2
8	村木 花奈	21	1	7	4	4
9	簀田小百合	11	0	4	3	2
10	田中 志保	3	0	1	1	1
11	北浦 彩加	0	0	0	0	0
12	今村和香葉	0	0	0	0	0
13	木庭亜理沙	0	0	0	0	0
14	田元 亜希	5	1	1	0	0
15	渡邊 彩乃	0	0	0	0	0
合計		76	4	25	14	16

チーム名						
慶誠						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	田口 亜文	4	0	1	2	1
5	西村由莉安	12	0	6	0	4
6	坂田 望	6	0	2	2	2
7	有働 千夏	8	0	4	0	2
8	河原 風香	4	0	2	0	1
9	古閑 千裕	0	0	0	0	0
10	中溝 奈々	15	0	6	3	3
11	影井 瑛美	0	0	0	0	1
12	中村 理沙	5	0	1	3	4
13	中村 十月	9	0	3	3	0
14	田中 加奈	4	0	2	0	0
15	神崎 愛梨	0	0	0	0	0
合計		67	0	27	13	18

戦評

熊本県勢同士の顔ぶれとなったシード決定戦は、1Q、慶誠ボールからスタート、お互いファーストシュートを落とすも、大津の大塚のミドルシュートで先制。大津はインサイドにボール集めバランス良いオフェンスを展開、対する慶誠は切り替えの早いオフェンスを展開し、お互い点の取り合いで序盤は進むが大津村木のドライブ、3ポイント、田元のスティールからの速攻が決まり、21 - 10と大津リードで終了。2Qは序盤、大津村木のオフェンスリバウンドからのシュート、好ディフェンスがあり、点の取れない慶誠はタイムアウトを請求(残り9分 23 - 10)、タイムアウト後も慶誠は中溝、中村が果敢にシュートに行くも決まらず苦しい時間が続く、大津は簀田のインサイド、河野のスティールなどで点差を広げていく。慶誠は中村のバスケットカウント、河原のドライブで食らいつくも、リードは変わらず43 - 24で折り返す。3Qは大津の落合が出だしからミドル、バスケットカウントと連続得点でスタート。それでも食らいつく慶誠は徐々にディフェンスでリズムを取り戻し、速攻が決まりだし中溝のバスケットカウントで59 - 42と点差を詰め、流れを引き寄せて61 - 44で最終Qをむかえる。4Qは、ディフェンスでリズムを取り戻した慶誠が田中と中村のインサイド、のシュートで徐々に点差を詰め、中村のフリースローで76 - 67とするも、ここで試合終了。リバウンドや多彩なオフェンスが光った大津が勝利した。

担当者(森)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第4試合(シード決定戦)						
日時	平成22年6月20日(日) 14:00~						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	17	—	25	97	福大大濠
	美来工科	69	21	—	16		
			12	—	30		
			19	—	26		

チーム名						
美来工科						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	新里 龍武	15	0	5	5	0
5	ファンティンマイケル真樹	5	1	1	0	2
6	喜久山 貴一	17	2	4	3	1
7	宮平 弥	11	1	3	2	0
8	島尻 恵汰	4	1	0	1	2
9	池原 秀平	0	0	0	0	0
10	大城 拓也	2	0	1	0	2
11	長嶺 直也	4	0	2	0	0
12	玉城 智也	11	2	1	3	0
13	座間味 光	0	0	0	0	0
14	照屋 友雅	0	0	0	0	0
15	金城 宏智	0	0	0	0	0
合計		69	7	17	14	7

チーム名						
福大大濠						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	古賀 弾	19	3	5	0	1
5	岡本 雄紀	0	0	0	0	0
6	水口 雅也	28	2	10	2	2
7	福元 直人	8	0	4	0	3
8	能隅 彰太	5	0	2	1	1
9	藤田 弘道	8	0	3	2	3
10	村越 圭祐	15	0	7	1	0
11	徳住 颯晟	0	0	0	0	0
12	高野 慎也	0	0	0	0	0
13	石川 雅朗	0	0	0	0	1
14	中尾 渉	0	0	0	0	0
15	新飼 雄三	14	0	7	0	4
合計		97	5	38	6	15

戦評

第1Q両チーム、ハーフマンツーマン。ゆっくりとした立ち上がり。1Q中盤から、大濠 新飼の速攻、水口の確実なミドルで点数を重ねる。美来工科は、大濠の高さにうまくせめることが出来ず、17 - 25の8点差で1Q終了。第2Q、美来工科の激しいディフェンスからの速攻が決まりはじめ、持ち味の速いパス回しから得点を重ねる。玉城の連続得点で点差をつめ、38 - 41の3点差で前半終了。

第3Q、大濠の激しいIDFに美来工科のオフェンスのボールが回らなくなる。大濠は、高さをいかした攻めと 古賀の3ポイントで点差を広げ、50 - 71の大濠21点リードで3Q終了。4Q、大濠の高さと外からの飛び込みのバランスの良い攻めに美来工科は点差を縮めることが出来ず、69 - 97で試合終了。

担当者(上原 裕樹)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

		Aコート 第3試合 決勝					
日時	平成22年6月20日						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	24	—	18	得点	チーム名
	中村学園	84	19	—	13	87	福大若葉
			11	—	15		
			13	—	21		
			17	—	20		

チーム名						
中村学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	神崎 由香	18		8	2	4
5	白根 栞里	17	1	5	4	5
6	竹ヶ原麻衣	0				
7	石原 美幸	0				
8	石川 朋実	0				
9	打越 裕梨	17		7	3	4
10	濱武 舞衣	0				
11	橋爪 伶奈	0				
12	安間 志織	9		2	5	2
13	米倉 晴香	12	4			4
14	原 杏奈	0				
15	谷村 里佳	11		5	1	5
合計		84	5	27	15	24

チーム名						
福大若葉						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	田中 由香	2		1		5
5	渡邊 亜弥	36	5	8	5	2
6	中迫 薫乃	7	1		4	
7	成林 礼彩	15	1	5	2	1
8	百崎 千尋	0				
9	藤 紗織	5		1	3	4
10	熊本 有真	0				
11	平井 亜魅	0				
12	吉武 詩織	0				
13	未永 愛里	0				
14	松本 咲	21		8	5	4
15	西村かおり	1			1	
合計		87	7	23	20	16

戦評

今大会の決勝戦は福岡県同士の対戦となった。第1ピリオド中村学園は 安間の素早いボール運びから 打越 谷村のインサイドを活かしたプレイでスコアを重ねる。一方福大若葉は 松永のインサイドプレイや 成林のドライブなどで得点をするも中村学園の高さを活かしたプレイにオフェンスのリズムをつかめない。第2ピリオドに入っても福大若葉は 渡辺の3ポイントシュートなどで何とかくらくき終了間際 中迫の3ポイントシュートを決めるものの第1ピリオドの差を埋める事は出来ずに43 - 31と中村学園が12点差のリードで前半を終える。後半第3ピリオド中村学園の 打越 谷村が立て続けにファウルを犯しそこから中村学園のオフェンスのリズムが悪くなりなかなかシュートが決まらない。一方福大若葉は 渡辺のスティールからの速攻、3ポイントシュートなどで一時3点差まで詰め寄るが 谷村のインサイドからの得点で何とか持ち直しこのピリオドを終えるが福大若葉は中村学園を11点に押さえた。第4ピリオド出だしまだオフェンスのリズムがつかめない中村学園に対し福大若葉は早いパス回しやオフェンスリバウンドなどで一進一退の攻防が続くが残り5分38秒で中村学園 谷村がファウルアウト。残り2分福大若葉 渡辺が3ポイントシュートを2本連続で決め2点差となりその後残り30秒福大若葉2点ビハインドから 渡辺がカットインからスコアし同点延長へ。延長に入ってもお互い一步も譲らず得点は77 - 77で再び延長へ。中村学園は 米倉の3ポイントシュート福大若葉は 成林のカットインなどで得点するが福大若葉1点リードの残り1分福大若葉 松本がオフェンスリバウンドからファウルをもらいフリースローを2本とも沈めそのまま逃げ切った。決勝にふさわしい白熱した試合で観客も大いに盛り上がる試合だった。

担当者()

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

女子	Aコート 第1試合 準決勝						
日時	平成22年6月20日						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	28	—	9	得点	チーム名
	中村学園	82	20	—	16	61	大津
			19	—	15		
			15	—	21		

チーム名						
中村学園女子						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	神崎 由香	14	1	5	1	2
5	白根 栞里	19	1	7	2	3
6	竹ヶ原麻衣	0				1
7	石原 美希	0				
8	石川 朋実	0				1
9	打越 裕梨	21		9	3	2
10	濱武 舞衣	0				
11	橋爪 伶奈	2		1		
12	安間 志織	13	1	4	2	3
13	米倉 晴香	5	1	1		1
14	原 杏奈	0				1
15	谷村 里佳	8		4		4
合計		82	4	31	8	18

チーム名						
大津						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	落合 千里	19	2	6	1	3
5	大塚 優子	6		3		
6	石坂 郁美	2		1		1
7	河野 怜美	4		2		1
8	村木 花奈	13	1	4	2	
9	藁田小百合	15		6	3	3
10	田中 志保	0				
11	北浦 彩加	0				
12	今村和香葉	0				
13	木庭亜理沙	0				
14	田元 亜希	2		1		
15	渡邊 彩乃	0				
合計		61	3	23	6	8

戦評

第1Q 両チームともマンツーマンでスタート。序盤から中村学園のペースで試合が進む。中村学園の激しいディフェンスと高さの前に、大津は気持ちよくシュートをさせてもらえず開始4分間得点することができない。中村学園は#9打越、#12安間を中心に確実に得点を重ねていく。大津も#9藁田のインサイドで応戦するがなかなか得点を伸ばすことができず、28 - 9と中村学園19点のリードで終わる。

第2Q 中村学園は#4神崎の連続得点などで残り4分時点で、42 - 16と差を26点にまで広げる。大津はタイムアウトを取り、オールコートゾーンプレス、ハーフコートゾーンで中村学園のミスをおうとするが、これを冷静に打破されなかなか、差を縮めることができず、48 - 25と中村学園23点リードで前半を折り返す。

第3Q 中村学園はディフェンスの手を緩めず、大津に追撃の隙を与えない。大津は思い切りの良いシュートがようやく入りだし一進一退の攻防が続く、67 - 40と中村学園リードで終わる。

第4Q 大津は#4落合、#8村木の連続ゴールで逆転を試みるが、序盤の点差が大きく影響しそのまま試合終了。82 - 61で中村学園が勝利した。

担当者(岩坪 大輝)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

女子	Bコート 第1試合 準決勝						
日時	平成22年6月20日						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	15	—	21	得点	チーム名
	慶誠	58	12	—	27	81	福大若葉
			19	—	18		
			12	—	15		

チーム名						
慶誠						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	田口 亜文	5		2	1	
5	西村由莉安	8		4		
6	坂田 望	13	1	4	2	1
7	有働 千夏	2		1		1
8	河原 風香	0				
9	古閑 千裕	0				
10	中溝 奈々	5	1	1		3
11	影井 瑛美	12		4	4	1
12	中村 理沙	7		2	3	3
13	中村 十月	6		3		2
14	田中 加奈	0				
15	神崎 愛梨	0				
合計		58	2	21	10	11

チーム名						
福大若葉						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	田中 由香	8	2	1		
5	渡邊 亜弥	27	2	9	3	2
6	中迫 薫乃	7	1	2		1
7	成林 礼彩	10		5		1
8	百崎 千尋	0				
9	藤 紗織	0				2
10	熊本 有真	0				
11	平井 亜魅	2		1		
12	吉武 詩織	0				
13	末永 愛里	0				
14	松本 咲	21		9	3	3
15	西村かおり	6		3		1
合計		81	5	30	6	10

戦評

最初のシュートは慶誠。福大若葉のステップインシュートで先制。慶誠は福大若葉のディフェンスを崩せない。慶誠はドライブを仕掛け突破を図るが、福大若葉はそれを容易にさせない。慶誠の3Pでリードを奪うが、福大若葉はの個人技で追いすがり、のインサイドでひっくり返す。の3Pで加点し、引き離しにかかる。慶誠もさせじとマンツーマンディフェンスを徹底する。6点差。慶誠のカウントワンスローから追い上げにかかる。福大若葉はそれをさせまいとシュートを打つがなかなか決まらない。慶誠もつめるチャンスだが、福大若葉はその機会を与えない。福大若葉の高さを活かし得点。慶誠はドライブを仕掛け突破口を見出そうとするが、うまくいかない。福大若葉はコンビプレーで着々と加点していく。後半、慶誠のドライブシュートで反撃開始、ハーフ明けで体に硬さの見える福大若葉だが、のドライブシュートをきっかけに動きがよくなる。点の取り合いで試合が流れていくが少しずつ福大若葉が引き離していく。残り1分お相手のミスに乗じて慶誠が3連続得点。20点差でQへ。福大若葉が慶誠のミスを逃さず5点連取。中盤両チームとも得点が止まり、ゲームが膠着状態になる。慶誠は追い上げるチャンスだったが、攻め手を欠いてしまう。一進一退のまま点差があまり縮まらない状況でゲームセット。

担当者(金重)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Aコート 第2試合 準決勝						
日時	平成22年6月20日						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	18	—	10	得点	チーム名
	福岡第一	85	23	—	16	68	美来工科
			27	—	16		
			17	—	26		

チーム名						
福岡第一						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	本間 遼太郎	21	1	8	2	0
5	白川 健人	0	0	0	0	0
6	井星 一希	6	0	3	0	1
7	長島 エマニエル	14	0	7	0	2
8	川崎 健斗	0	0	0	0	0
9	小松 雅輝	0	0	0	0	0
10	ゲイ・エルハジ・マリク	18	0	8	2	2
11	田中 光	16	3	3	1	0
12	梁 超	0	0	0	0	2
13	鷗 誠司	10	0	5	0	0
14	幡本 優生	0	0	0	0	0
15	山本 純平	0	0	0	0	0
合計		85	4	34	5	7

チーム名						
美来工科						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	新里 龍武	15	0	5	5	3
5	ファンティンマイケル真樹	0	0	0	0	1
6	喜久山 貴一	31	5	7	2	1
7	宮平 弥	10	0	5	0	1
8	島尻 恵汰	0	0	0	0	0
9	池原 秀平	0	0	0	0	0
10	大城 拓也	6	0	3	0	4
11	長嶺 直也	0	0	0	0	0
12	玉城 智也	5	1	1	0	2
13	座間味 光	0	0	0	0	0
14	照屋 友雅	1	0	0	1	1
15	金城 宏智	0	0	0	0	0
合計		68	6	21	8	13

戦評

第1Q両チーム厳しいディフェンスから速い攻撃を見せる持ち味を活かしたすばらしい立ち上がり。第1Q後半、福岡第一は 本間 田中の連続シュートで流れをつかみ18 - 10、8点リードで第1Q終了。第2Q美来工科 喜久山の連続得点で点差を縮めるが、福岡第一も 田中の3Pなどで得点を重ね41 - 26福岡第一がリードをひろげ前半終了。

第3Qインサイド ギールを中心に得点を重ねる福岡第一に対し、アウトサイドで勝負する美来工科はシュートの確率が上がらず点差をひろげられる。第4Qに入り、美来工科はアウトサイドのシュートが入りだし得点を伸ばすが、延岡学園のインサイドの攻撃を止められず思うように点差を縮めることができない。第4Q中盤から美来工科はフロントコートからプレスを仕掛け、相手のミスを誘い得点に結び付けるが、リードを守りきった延岡学園が85 - 68で勝利を収めた。

担当者(谷村弘章)

第63回 全九州高等学校バスケットボール競技大会

試合結果及び個人トータル表

男子	Bコート 第2試合 準決勝						
日時	平成22年6月20日						
会場	熊本県立体育館						
対戦結果	チーム名	得点	23	—	37	得点	チーム名
	福大大濠	78	13	—	27	123	延岡学園
			22	—	25		
			20	—	34		

チーム名						
福大大濠						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	古賀 弾	13	2	3	1	5
5	岡本 雄紀	0	0	0	0	0
6	水口 雅也	19	5	2	0	2
7	福元 直人	24	2	8	2	1
8	能隅 彰太	0	0	0	0	0
9	藤田 弘道	6	0	2	2	4
10	村越 圭祐	2	0	1	0	0
11	徳住 颯晟	0	0	0	0	0
12	高野 慎也	0	0	0	0	0
13	石川 雅朗	0	0	0	0	0
14	中尾 渉	0	0	0	0	0
15	新飼 雄三	14	0	7	0	1
合計		78	9	23	5	13

チーム名						
延岡学園						
番号	氏名	得点	3P	2P	自投	反則
4	甲斐 慶彦	2	0	1	0	0
5	エリマン プイ	24	0	10	4	2
6	寺原 拓史	15	2	4	1	0
7	黒木 亮	15	0	7	1	1
8	岩田 大輝	20	1	8	1	1
9	善家 耕太郎	3	0	1	1	0
10	田中 駿也	6	1	1	1	0
11	平岡 大志	0	0	0	0	0
12	脇坂 恭輔	2	0	1	0	0
13	岡本 飛竜	6	0	3	0	1
14	ベンドラメ礼生	16	2	5	0	2
15	エルハジ・アッサン・ジョブ	14	0	7	0	2
合計		123	6	48	9	9

戦評

両チーム試合開始直後から激しい攻防となる。先手を取ったのは、延岡、番岩田、番ベンドラメの3Pシュートでリードをひろげる。対する大濠も 番新飼の1on1、番水口の3Pで得点するも、延岡 番エリマンにゴール下を支配され、1Q終了時37 - 23とリードをひろげられる。2Qに入り大濠は2 - 3のゾーンに切り替えるが延岡 番エリマンを止められない。残り5分には3 - 2のゾーンに切り替えるが、延岡 番エルハジの豪快なダンクシュートで流れをつかんだ延岡が、福大大濠のターンオーバーを誘い、連続得点。逆にゾーンを敷いた延岡は 番エルハジが完全に制空権を奪い、連続でブロックショットを見せる。攻めては速攻から会場中が沸くようなワンハンドのダンクシュートを決める。

後半に入り両チームマンツーマンとなり、一進一退となるが高さで勝る延岡がジリジリと差を広げる。3Qなかばに延岡 番エルハジがこの試合3本目となるアリウープからダンクを決める。4Qでも流れは変わらず、延岡がリバウンドから速攻を連続して決め最終的に123 - 78で延岡が勝利した。

担当者(田口智之)